

2005年 1月 4日

2005年社長年頭挨拶（要旨）
（従業員向け年頭メッセージ）

2006年度までに連結売上高1兆円の達成、 市場の伸びを上回る高成長、高収益企業の実現

株式会社 日立ハイテクノロジーズ
執行役社長 林 將章

新年明けましておめでとうございます。

今年日立ハイテクグループの中長期的な将来像の明確化とその実現に向けて、実りある年にしたいと思います。「ハイテクソリューション事業におけるグローバルトップを目指す」というグループ全体の共通目標に向け、さらなるチャレンジをお願いします。お客様が抱えている問題、製品やサービスなどに関するニーズを汲み取り、これらに対して当社が有する最先端技術力や情報をコアとしたソリューションを提供すること、すなわち顧客第一主義の実践こそが、日立ハイテクの発展にとって最も大切なことでもあります。

次なる目標として、「2006年度までに連結売上高1兆円の達成、市場の伸びを上回る高成長、高収益企業の実現」を掲げ、この達成に向けて皆さんと共に頑張りたいと思います。

年頭にあたり皆さんに4つのお願いをさせていただきます。

1. 開発の促進

今後は付加価値付与型のビジネスモデルへ転換を図ることによって、仕入先、顧客とのパートナーシップをより強固なものにしていく必要があります。パートナーから見て価値を生み出す会社と認知してもらえよう、事業開発を推し進めていただきたい。技術面、品質面での優位性はもちろん、価格面においても競争力のある製品をタイムリーに世の中に出すことが重要であり、そのための中長期的な視点でのマーケティング力と開発力の強化が最大の課題となっています。選択と集中の経営判断によるコア製品へのリソース集中を早期に実行することが必要です。主力製品へグループを挙げての支援、強化策をお願いします。

2. グループ全体の最適化、企業価値の最大化の追求

現在当社では、聖域を設けず企業活動のあらゆる分野を対象にして改革を図ろうとしています。従来からの慣習に捉われず重複している業務、省力化できる業務、アウトソーシングできる業務をきちんと見極め、筋肉質な組織にするようお願いします。これからは常にグループ全体での最適解を求めることが重要です。各部署が同じ目的に向かって最大の力を発揮できるような協力体制や仕事の仕方が求められています。

3.さらなるグローバル化の推進

当社はすでにグローバルな事業展開を行っていますが、業容を拡大していくためには、今後さらにグローバル化を進展させていくことが必要です。真の意味でのグローバル化を推進するためには、日本の本社の考え方を画一的に押し付けるのではなく、各国の国情に合わせたローカライズが必要となります。現地事情に精通したローカルスタッフの積極的な登用、権限委譲、本社との人事交流も含めた人材教育などを実施するようお願いします。

4.固定費を含む総コストの大幅な削減

徹底した原価低減、軽量化の推進を繰り返しお願いしてきましたが、現状は未だしと言わざるを得ません。損益分岐点の改善のため、今こそトップ自らが強い意志をもって総コストの削減を推進すべき時であり、節約すべきところと投資を強化すべきところを分けるなど、メリハリをつけることが肝要だと考えています。

日立ハイテクグループが将来にわたって持続的な発展を続けられるためには経営改革によって質を高め、また社員の皆さん一人一人が高い目標を掲げて、これにチャレンジしていくことが重要です。

コンプライアンスや環境問題への対応など、企業市民として法令を遵守し社会的責任を果たしていくことが、以前にも増して強く要求されてきています。当社としても公明正大で、透明な企業経営の実現に向けた制度、組織体制の充実を図り、着実に実行していきます。

皆さんも各国の制度、ルールに照らし合わせて、常に「すべてにおいて損得より善悪が優先する」という基本に立ち返った判断、行動を改めてお願いします。

本年が皆さんとご家族にとりまして、また日立ハイテクグループにとって実り多いよき1年となることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

お問い合わせ先

株式会社日立ハイテクノロジーズ

総務部広報課：塩澤 TEL：03-3504-5637